

サガンスギの森林 100 年構想の実現に向けた業務連携の取組

1 テーマの趣旨・目的

佐賀県では「持続可能なさかの森林・林業の確立」を目指し、成長が早く木材強度が高く花粉が少ないという優れた特徴を持つ特定母樹「サガンスギ」を100年後までに県内のスギ林すべてに植え替えるという「サガンスギの森林（もり）100年構想」を進めている。

そのため、サガンスギ苗木生産量の拡大に取り組んでいるが、サガンスギの苗木生産には散水や温度管理のためのハウス等の施設整備が必要であり、既存の苗木生産者はサガンスギへの転換に消極的であったため、新たな苗木生産の担い手の確保・育成が必要であった。

一方、管内の農業普及指導員や市町では中山間地の活性化や農家の所得向上を目的として、新たな作物による複合経営の推進に取り組まれていた。

そこで、農家の複合経営としてサガンスギの苗木生産を提案し、苗木生産の担い手の確保・育成と中山間地の農家の所得向上という2つの課題を同時に解消することを目指し、農業普及指導員や市町と連携し、新たな支援に取り組んだのでその概要を報告する。



図1 サガンスギの森林100年構想

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

県では56年の歳月をかけて人工交配、選抜、成長調査、木材強度試験を経て次世代スギ精英樹を開発し、2022年にサガンスギとしてデビューさせ、苗木の安定生産のため、穂木の採取源として県有地に採穂園を計画的に造成している。

県内の苗木生産者は高齢化と後継者不足により減少しており、当事務所管内においては苗木生産者が一人も居ないため、一から掘り起こす必要があった。

このため、管内の森林組合及び林業事業体に苗木生産の参入について提案したところ、関心が高かったものの人手不足が主要要因で参入は難しい状況であった。

(2) 取組内容

① 農業普及指導員や市町職員との情報共有

令和5年度から東部農林事務所林務課と佐城農業振興センター北部普及課、佐賀市総務・地域振興グループの三者が集まり、林業や中山間地農業などの課題や取組に関する情報共有や意見交換を行っている。

その中で林業からはサガンスギ苗木生産、原木しいたけ生産、山菜等の新たな特用林産物生産、森林組合での造林作業の短期雇用について提案を行った。

農業からは新規就業対策や中山間地の農業者の冬期の収入源対策として複合経営の推進に取り組んでいることなどの情報提供を受けた。

その結果、サガンスギ苗木生産が農作物との労働時間の調整が可能で空き農地が活用できることから農家の複合経営として取り組める可能性が高いと判断し、佐賀市及び神埼市の中山間地で複合経営を検討している農家と森林組合、林業事業体を対象にしたサガンスギ苗木生産説明見学会や林業試験場の見学会を企画した。

② サガンスギ苗木生産説明見学会

説明見学会ではサガンスギ苗木の生産現場を視察し、育苗方法や施設整備に必要なコスト、収益見込み、補助事業などを説明した。農業普及指導員と連携したことで、苗木生産にも活用可能な農業分野の補助事業についても確認し、参加者に情報提供ができた。



写真1 サガンスギ苗木生産説明見学会

③林業試験場の見学会

林業試験場内の母樹園や育苗ハウスの見学会を実施し、穂木の供給体制や苗木生産方法等について説明した。



写真2 苗木生産方法の説明

④北部農業技術連絡協議会での情報提供

市町の農業関係職員やJAなどが会員の農業技術連絡協議会の場で林業の現状や取組とともに、サガンスギ苗木生産の概要や農業と特用林産物生産の事例紹介などの情報提供を行った。



写真3 北部農業技術連絡協議会

⑤生産技術指導の体制整備に向けた林業試験場と新規生産者のマッチング

林業試験場ではサガンスギの苗木生産技術を確立していたものの、新規生産者への技術指導の体制整備が課題であったため、苗木生産指導の場となるトレーニングセンターの設置を検討していた。そこで、新規生産者と林業試験場と林業普及指導員の三者で意見交換の場を設け、トレーニングセンターにおける研修内容の検討について連携して取り組んだ。

(3) 成果

①新規生産者の確保

説明見学会などに参加していた神崎市脊振地区の農家3名が生産グループを設立し、来年2月からサガンスギ苗木の生産を開始することになった。

このグループでは生産開始に必要な施設整備に当たり農業分野の補助事業を活用されたが、林業普及指導員と農業普及指導員が連携して事業計画書から補助申請に至るまでの書類作成を指導したため、スムーズに事業に着手することができた。

また、同じく説明見学会に参加していた佐賀市富士地区の農業法人も令和7年度から苗木生産に取り組む予定であるなど成果が広がっている。

②技術指導の体制整備（生産技術の普及）

新規生産者に対する苗木生産技術の普及を図るため、今年10月からサガンスギトレーニングセンターを開講するなど、技術指導の体制整備に着手することができた。

(4) 課題

①農業普及指導員や市町職員との連携

農業普及指導員や市町職員との連携により苗木生産者の確保と中山間地域の複合経営の事例づくりができたものの、今後も連携した取組を行うために継続性のある仕組みづくりが必要である。

②苗木生産技術指導の体制確立

トレーニングセンターの取組は始まったばかりであり、苗木生産者のさらなる技術向上のためには、苗木生産技術指導の体制を確立し、年間を通した継続指導が必要である。

3 今後取組むべき内容

①農業普及指導員や市町職員との継続した取組

林業は苗木生産に限らず、特用林産物生産や林業作業の短期的雇用など農家の複合経営の可能性があるので、農業普及指導員や市町職員との連携を継続し、林業の担い手確保と農業者の所得向上、中山間地の活性化における課題の解決に取り組みたい。

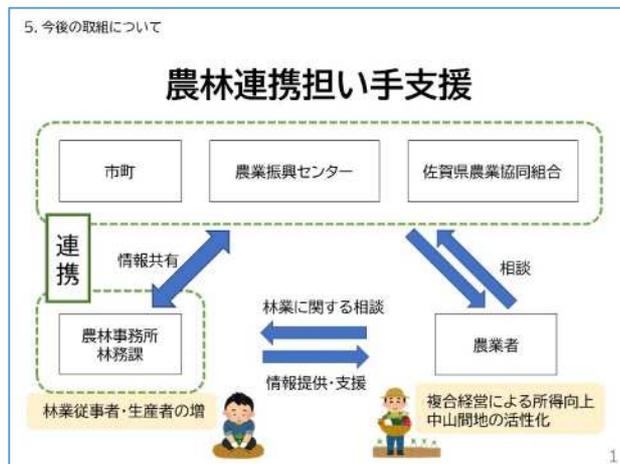


図2 連携した担い手支援のイメージ

②苗木生産技術指導の体制確立に向けた取組

サガンスギ植林面積を増やすためには、苗木の生産本数と品質を向上させる必要があり、新規生産者の意見を参考にしながらトレーニングセンターの技術指導を充実させ、苗木生産技術指導の体制確立する必要がある。

品質の良いサガンスギ苗木が安定的に供給されることにより、サガンスギの評判がさらに広がり、森林所有者の伐採と再造林の意欲の醸成に繋がると考えている。

③植林の加速化

苗木の増産と植林の加速化（造林面積の拡大）を両輪

で推進する必要があるため、国有林とも連携し、植林面積の拡大を推進したい。

また、中山間地で問題になっている耕作放棄地の増加について、植林して山林化することが対策の一つになるため、農業普及指導員と連携して取り組めないか検討している。なお、農業者が造林事業を活用して自ら植栽作業を行うことにより冬期の収入源になり、林業においても担い手不足の軽減になると考える。

これら「サガンスギの森林100年構想」の取組の推進により、木を伐って、使って、植えて、育てるという好循環の創出になり、持続可能なさがの森林・林業の確立に繋げていきたい。